

令和2年度 東京都立調布南高等学校 学校経営報告

I 今年度の取組目標と自己評価

1 「学習指導」 高い目標を目指すことができる教科指導の推進

- (1) 策定した学力スタンダードや入学選抜試験、定期考査等を分析し、教科会や校内研修を活用するなどして授業改善を進めた。
- (2) 一斉休校時も含めて、各教科課題の提出やクラウドサービスの活用、予習、復習の励行などにより、自主的な学習習慣を身に付ける取組の充実を図れた。
- (3) 一斉休校や分散登校期間があったが、年間14回の土曜授業の実施により授業時数を確保した。分散登校期間には、ICT機器の活用により、対面と同様の授業形態を維持できた。また、数学、英語での習熟度別授業により、学力の定着を図れた。
- (4) 一斉休校や分散登校期間中、次期学習指導要領の改訂も踏まえながら、オンデマンド学習やクラウドサービス、双方向型の対面質問箱を設けるなどして、オンライン学習の充実を図った。また、オンライン学習のためのプロジェクトチームを構築し、校内研修を4回実施するなどしてICT機器の活用を主とした授業改善を図れた。

2 「進路指導」 「チーム調南」による組織的、系統的な進路指導

- (1) 一斉休校期間中の進路通信の発行や年間4回発行した「M-P R I D E」などにより、コロナ禍でも必要な情報を発信することができた。課題研究は、キャリア教育の大きな柱とし、課題研究に関する通信等も発行した。次年度については、課題研究を含めたシステム等の改善に取り組む。
- (2) 1、2学年を対象とした、大学からの対面での出張講義、1学年を対象とした「社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」で職業人インタビュー、2学年による課題研究による研究報告の提出や発表会などにより、自己の進路についての啓発を促し、キャリア教育の充実を図ることができた。1学年については、勉強合宿は中止であったが、合宿中に実施予定であったSDGsワークショップも開催した。
- (3) 模擬試験分析会を学年ごとに実施し、教科指導や個別面談に生かすことができた。模擬試験の回数も含めて、分析会の内容や実施方法等については今後検討していく。
- (4) 一斉休校や分散登校による授業時数の確保のため、長期休業日が短くなり、設定しにくい状況であったが、短い中にも生徒の実態に応じた補習や講習を実施できた。
- (5) 長期休業日期間等の活用が難しかったが、各学年とも希望者との三者面談を実施し、保護者との情報の共有を図れた。進路保護者会を各学年とも実施した、概ね進路状況や進学情報等共有できたが、保護者のニーズ等を踏まえ、内容を精査し次年度も実施する。

3 「生活指導」 基本的生活習慣の確立と社会規範の育成

- (1) 学年集会等様々な機会に、時間を守る意義を理解させ、遅刻防止を徹底した。チャイム着席や授業に臨む姿勢、授業に取り組む習慣は、ほぼ身に付いている。今後は、チャイム即授業など、教員側の働きかけも推進していく。
身だしなみについては、学年間に差はあるものの、意義とプライドについて周知できた。
- (2) 家庭とも連携して、人権尊重の観点から適切に情報通信機器使用するための情報モラルの育成を図る。

ホームルームや生徒会活動等を生かして、情報モラルの規範意識を育成した。特に、SNS利用時の危険性や依存症などの予防の観点から、生徒会自ら策定し改訂した「SNS調南ルール」を生徒総会の議題として人権尊重の観点から自主的にモラルを高める取組も促した。

- (3) 朝の校門での挨拶指導をはじめ、日常での挨拶を励行し、お互いに思いやる態度を育てる。
年間を通して、朝の体温調査（サーモグラフィ）と挨拶指導を行った。10月からは、校門での指導も合わせて実施した。朝の体温調査も含めた組織的な挨拶指導ができたので、次年度以降も協力体制を構築していく。
- (4) 具体的な物品管理方法を示し、貴重品も含めて、自己管理能力を高める。
衣類等の紛失が若干あったが、置忘れ等の紛失についての問い合わせが少なく、貴重品も含めて自己所有の物品管理の徹底を図る必要がある。
- (5) いじめ体罰アンケートは、年間3回実施した。「学校いじめ対策委員会」では、いじめを見逃すことなく適切な対応ができるように体制を整えている。
- (6) 連休前後や長期休業日前後などを重点とし、日常生活の中で生活指導部、学校保健委員会と学年で生徒情報を共有し、スクールカウンセラーや外部機関なども活用して、自殺防止の徹底を図る。
一斉休校や分散登校の時期ではあったが、1学期にスクールカウンセラーによる1学年全員のアンケートを実施した。また、スクールカウンセラーによる相談の機会を40回程度設定し外部からのサポートを得ることができた。生徒の状況については、企画調整会議を中心に共有し、共通理解を深めた。

4 「特別活動・部活動」 社会性を育む特別活動の推進

- (1) 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、学年をまたぐ学校行事や校外学習等は、全て中止となった。各学年で独自の行事を計画実施し、生徒主体の委員会組織を整え、自主的に取り組ませた。各学年とも、行事に対する満足感が高かった。感染状況により、学校行事の中止も予想されるが、自主的に取り組むことができるよう、教員側も組織的に取り組む。
各種委員会活動は、意義を認識させ、生徒自ら行動できる機会を増やすことで、主体性を身に付けることができた。
- (2) 100%の入部を目指して、部活動の加入を奨励し、指導体制を整え、運動部活動指針や文化部活動指針に基づき、運動部文化部ともに活性化を進める。
一斉休校や新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新入生歓迎会等の行事が中止となったが、生活指導部や担任、生徒による部長会等が主となり、部活動の加入の働きかけを行い、加入率は、94%となった。また、延べ6か月程度の部活動中止の時期があったが、運動部、文化部ともに年間計画を策定し、感染防止対策を講じながら活動し、活動状況については、ホームページ等に掲載するなどして広報活動にも役立てた。
- (3) 感染拡大防止対策により、オンラインや学年ごとなどにより部活動保護者会を実施し、コロナ禍にある中での活動方針や内容、試合の参加等、保護者との共通理解を図った。
- (4) オリンピック・パラリンピックに関する講演等を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、余儀なく中止となった。感染状況等を踏まえた上で、推進していく必要がある。

5 「体力向上と健康づくり」 環境整備と健康・安全教育

- (1) 体育祭やマラソン大会など中止となり、一斉休校や分散登校により部活動等も制限される中、授業や部活動等、活動内容や方法を工夫することで体力を高める取組を推進した。また、球技大会等を通して、スポーツに親しむ態度を育成した。結果として、都立学校11校のうちの1校として「子どもの体力向上推進優秀校」の表彰を受けた。
- (2) 感染防止対策として宿泊防災訓練は、中止となったが、外部機関と連携した避難所設置訓練を実施し、防災に関する実践力の向上を図った。
- (3) 外部講師を招き、交通安全教室を実施した。学年ごとに自転車についての安全対策やルール

- 等についての指導を行い、安全に留意した自転車の運転について実践力を養った、
- (4) 大掃除を年間行事計画に位置付けることにより、生徒とともに、教職員の美化意識を高めることができ、校内美化を推進した。経営企画室が紙の再利用等を推進しているが、ゴミの分別や持ち帰り等の意識を高め、リサイクルの徹底を、さらに進めることも必要である。

6 「広報・募集活動」 組織的な広報活動

- (1) 学校ホームページの配置や内容等を改善し、一斉休校や分散登校等に関するお知らせだけではなく、学年行事や授業の様子などリアルタイムで発信することができた。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止により、体験授業や学校見学会、体験部活動等は、中止とした。学校説明会は、オンラインにより3日実施したが、授業や部活動の様子、カリキュラムや進路指導の内容等、伝わりにくいという課題が生じた。
- (3) オンラインによる外部の説明会にも参加し、学習塾訪問も計画的に実施したが、行事等が中止になり、来校者を増やす取り組み自体も感染拡大防止のため中止とし、入学選抜の倍率にも影響が出た。

7 「地域連携」 地域に根付いた活動

- (1) 新型コロナウイルス感染症の影響により、地域等の行事やイベントが中止となり、連携を図ることはできなかった。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止により、公開講座等は、中止とした。

8 「学校経営・組織体制」 組織としての課題対応

- (1) 一斉休校や分散登校を受けて、学習指導面での新たな委員会を増やすことになったが、各分掌、委員会等が課題を整理し、組織的に解決を図った。しかしながら、組織間での調整を図り、すり合わせても、なお意見を主張する場面も見られたので、主幹教諭を中心に組織の在り方、組織運営について見直す必要がある。
- (2) 体罰に頼らない指導や個人情報の保護、流失防止など、企画調整会議や校内研修等により、未然防止を図った。一部、不適切な状況も発生したので、改めて服務事故の防止に努め、分掌や学年、教科がお互いに声を掛け合い、未然防止に努める必要がある。
- (3) 毎月の在校時間調査について、各教科、分掌の平均を周知したが、教科間、分掌間で大きな差が生じた。委員会組織や校務分担等の見直しが必要である。夏休等の取得や有給休暇等の取得を進め、メリハリのある働き方などを推進することができた。
- (4) 新型コロナウイルスの感染拡大防止を受け、大幅な予算の見直しが必要であったが、意図的・計画的に教員と連携しながら、効率的・効果的な予算の執行ができた。施設の管理や整備等も時機を逸することなく進めることができた。
- (5) 新型コロナウイルスの感染症拡大により、関係機関や近隣の小・中学校、特別支援学校との特別支援教育に関する連携は、ほとんどできなかった。

II 重点目標と方策

○ 学校評価 生徒の満足度

「学習指導」 70% 「特別活動」 85%
⇒ 「学習指導」 81.5% 「特別活動」 92.0%

○ 学校評価 保護者の満足度

「学習指導」 80% 「学校行事」 85%
⇒ 「学習指導」 89.8% 「特別活動」 92.5%

○ 進路決定率 85%以上

- | | |
|------------------|-------|
| 国公立大学及び難関私立大学合格者 | 15人 |
| GMARCH合格者 | 55人 |
| ⇒ 進路決定率 | 87.4% |
| 国公立大学及び難関私立大学合格者 | 23人 |
| GMARCH合格者 | 121人 |
- 家庭学習時間
- | | |
|---------|--------|
| 1、2学年 | 90分以上 |
| 3学年 | 120分以上 |
| ⇒ 1、2学年 | 58分 |
| 3学年 | 215分 |
- 一斉休校中の家庭学習時間は除いた。定期考査前と通常時では大きな差があった。
- 長期休業中の講習・補習講座数 80講座
- | | |
|-----------|--------|
| 受講延べ人数 | 2,500人 |
| ⇒ 36講座 延べ | 545人 |
- 一斉休校等により夏季休業日が2週間に短縮されたことと感染防止対策により昨年度より受講者は減ったが、講習等の設定については、充実できた。
- 学校見学会来校者 延べ 2,300人以上
- ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止により実施しなかった。
- 学校説明会来校者 延べ 1,500人以上
- ⇒ 1703人
- 新型コロナウイルス感染拡大防止により、3日設定したが、全てオンラインにより実施した。
- 部活動加入率 95%以上
- ⇒ 94%
- 都大会、コンクールでベスト16相当以上 5部
- ⇒ 2部
- ホームページの更新回数 300回以上
- ⇒ 616回
- 外部での募集に向けた広報活動、説明会 10回以上
- ⇒ 1回
- オンラインにより参加した。
- 学習塾等の訪問 100校以上
- ⇒ 173校

Ⅲ 次年度以降の課題と対策

1 学習指導

入学選抜試験の結果に基づいた分析については、広報活動も含め校内研修を実施し、各教科における指導方法改善の資料となったので引き続き分析を実施する。

定期考査については、各教科内での分析を、担任に情報提供するなどして、組織的に学力を向上に取り組む。

今年度、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、オンライン学習の指導法等について研修を実施した。オンラインによる授業法等については、さらなる研修を進めていく必要がある。

2 進路指導

新型コロナウイルス感染症の予防策を講じながら、保護者対象の進路講演会等が実施でき、好評は得ているが、保護者のニーズにより沿った内容等に刷新し、次年度以降も継続していく。ま

た、今年度は、大学入試の制度が変更になった初年度であったが、組織的な対応により乗り越えることができた。今年度の様々な入試制度に対する取り組みや模擬試験の分析による個別対応など次年度に生かし、自己の目標を高くし、挑戦できる指導を推進していく。

キャリア教育については、感染対策を講じながら、企業や大学関係者など幅広い分野の外部講師による講話や講演等が実施できたので、キャリア教育の一環として、目標や希望の実現に向け、次年度以降も内容を工夫し、充実を図る。

課題研究の取組についても、キャリア教育を見据えながら、教職員全員が、組織的に指導を担当し、生徒が主体的に取り組める環境づくりを進める。

3 生活指導

学年間の共通認識を図りながら生活指導を進め、遅刻については、昨年度より大幅に減少し、概ね規則正しい学校生活を送ることができたので、次年度以降も朝の挨拶指導や感染予防対策としての体温調査（サーモグラフィ）等を合わせて、指導体制を整え、遅刻防止対策を進める。身だしなみと物品管理については、学年間による指導の差など、課題もあるので組織的な指導を継続する。

自転車等の安全指導については、法改正等も踏まえて実施する必要がある。

いじめ等の防止に向けては、学年、教科等の情報共有を図り、迅速かつ組織的な対応ができるようにする。

4 特別活動

今年度は学校行事や宿泊行事がすべて中止となったが、次年度以降も実施の可否については、予測がつかないが、感染対策を踏まえた実施形態の検討し、生徒が主体的に行動し達成感を得られるよう支援体制を整える。

部活動については、延べ6か月程度、活動自粛となったが、加入率自体は、微増している。生活指導部と担任、部長会などを中心に、部活動への勧誘等の取組を推進する。

5 健康づくり

教科指導や体育的な行事、部活動の活動内容が制限される中、自主的な取組を工夫することにより、体力や運動能力の向上が見られた。新型コロナウイルスの感染状況にもよるが次年度も体を動かす機会を増やし、体力を高めることが必要である。

6 広報・募集活動

東京都中学校長会進路対策委員会の調査による志望者数は、昨年度、やや好転したが、今年度は、ここ10数年来ない大幅な減少となった。ホームページの更新頻度や内容の充実を図ったが、それ以外の広報活動の充実が求められる結果となったので、学校行事、学校見学会、学校説明会など来校の機会を増やすことが重要である。

7 地域連携

今年度は、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、地域との連携自体が難しい状況にあった。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、感染防止対策を講じながら可能な範囲で地域行事等の参加を模索する必要がある。

8 学校経営・組織

予算の執行や環境の整備、学事など、経営企画室と教職員の連携により学校が活性化するので、引き続き情報の共有化を図り、共通理解を深めて学校運営に取り組む必要がある。

効率的な組織運営を目指し、組織間の調整を図っていても、個人的な意見を強く主張し組織を疲弊化させる傾向が見られるので、組織人としての意識を高め、組織の一員としての自覚をもった組織運営が必要である。